



「他人の難儀を我が身に」

奥川達雄先生は、大正十一年八月七日に、御殿場教会の初代、若田福太郎、みち夫妻の四男としてお生まれになりました。

昭和十六年五月に、金光教学院本科に入学（当時は修行期間が二年の本科と、一年の専科に分かれていました）、十八年に卒業しました。

同年四月十日、現役兵として岡山連隊に入営し、五月三十日より、昭和二十年八月十四日まで、大東亜戦争（太平洋戦争）で南支那（中国南部）方面勤務に従事されました。

復員後、昭和二十一年六月二十日より、平塚教会の御用を頂かれて今日となります。

○今年の三月十一日、東日本大震災が起こりましたが、その時先生はどうしてお

られましたか。

奥川先生（以下：奥）..その日は本郷親教会（東京）の月例祭に参拝していて、地震が起こった時は、祭典後の教話中で、お話しは一時中断しましたが、続いてお

話しがあり、月例祭を無事に頂きました。その日は列車が止



川でスバって山でコロんで...とってきました

# Interview

第 28 回 平塚教会 奥川達雄先生

まり、帰宅が出来ず、本郷教会で一晩お世話になりました。テレビを見ていて、信じられない光景ばかりで、

あ然としました。

地震直後は「教会も家族も無事であった。」と思って安心していたが、東北の方々が大変な難儀に立たされていることを知り、一日も早く復興が出来ますよう

にとご祈念させて頂きました。今回の地震の最中も、神様からのお計らいがあつたであろうと思います。

○地震から半年が過ぎましたが、何か思う事がありますか。

奥「私も家族も、教会も信者さんも、みな無事でよかった」と喜んでお礼を申し上げておりましたが、難儀に出合った方々の事を忘れてはならないと強く感じ、他人の難儀を我が身に受け入れて、一日も早く立ち直って頂くよう、強い祈りが大切だと感じました。ご祈念に次ぐご祈念と、日々祈りに力を入れております。

○ありがとうございました。

（今村則子）



みなさんこんにちは。神奈川県小田原教会の宮川昌也と申します。教師任命から3年が経ち、現在は教会長として教会御用に就き、また、今年の1月から東京センターに職員として出務しております。日々健康のおかげを蒙り、今年32歳になります。

私が連合会に思うところはとにかく楽しい場であって欲しいです。現代は人と人のつながりが希薄になり無縁社会と言われていきます。経済が発達し、食べ物に困る事無く、さし当って日本が戦争状態になる事も考えにくい平和な世の中です。平和で豊かな世界は人の望みのはずです。しかし、今の日本の社会は決して心豊かであるとはいえないのではないのでしょうか。

3月の大地震は今までを振り返り、社会のあり方がこのままではいけないのではないかと、これから見据える大きなきつかけだと思えます。だからといって世の中の仕組みをいきなり変えることはできません。そこがじれったく思えます。ある日いきなり日本中、世界中で金光大神の教えが行き届いたらこんないいことはないのになあ、と思います。そうはいきません。では、そのようになるにはどうしたらよいか。行き着くところは小さなことかもしませんが、日々神様に向かい「祈念をし、少しでも祈りの中身を行動に移す。これ以外にない」と確信しています。一人一人の祈りなくして世の中を変えられるわけがあり

ません。一人の祈りは本当は小さくありませんが、祈りが集まって教会の働き、連合会の働き、教団の働きになるのだと思えます。

連合会は神奈川県と山梨県の信奉者の祈りの力が集まる場所です。だからこそ楽しい場であって欲しいのです。ただ遊んで楽しいと言う意味でなく、心地よいと思えること、つまり安心して楽な気持ちでいられる場であって欲しいと思います。学校、職場、地域社会等色々な集まりがあります

が心の安らぎを得ると言う意味では、そんな場はなかなかないのではと思います。

## 連合会に思う

小田原教会 宮川昌也

私は教会生れの教会育ちでした。教会が楽しい場と思ったことはありませんでした。しかし教師になる際、金光教学院に入ったとき、とても安らぐ楽しい場でありました。同じ信心を持つ人同士がいる安心感はとても大きなものでした。ですので、私は教会も楽しい場であって欲しい、そういう場になりたいと思っています。私は自分の力などたいしたことがないのは重々わかっているつもりですが、私には神様がついてくださって無限の力を下さっています。神様の力を頂き、教会も連合会も楽しい場にできるよう御用させていただきます。

## かりんの輪

「津久井」の今・昔

津久井教会 田谷 真喜夫

平成18・19年の2年間に津久井郡内の4町と相模原市との合併が行われ、この合併により人口が70万人を超えた新相模原市は、平成22年4月1日に県内3番目となる政令市になりました。これに伴い区制を敷くこととなったこと等により、教会の所在地は、「相模原市緑区中野」となり、教会の名称である「津久井」という表示はなくなってしまうました。慣れ親しんできた地名がなくなったことに一抹の寂しさも感じていますので、信心に関することとは外れますが、津久井及び津久井教会について記させていただきます。

神奈川県北のはずれの山間部に位置しているのが、「津久井」です。この名称は、鎌倉時代に相模国三浦郡を支配していた三浦氏の一族が現在横須賀市となっている三浦郡津久井村を領有したことにより、その地名をとり津久井姓を名乗り、その後、北相模の地を領し津久井領と称したことが地名の起りであると伝えられています。戦国時代には、小田原の後北条氏に属する津久井城主内藤氏の支配下にありましたが、徳川家康の家臣に攻められ落城し、江戸時代には津久井の村々の大半は幕府の直轄地

# ☆「みんなのつどい」 が開催されました

去る7月31日(日)午前10時から、「みんなのつどい」が横浜市民防災センターと神奈川県教会を会場に催されました。参加者は54名(16教会)でした。

今年の「みんなのつどい」は、東日本大震災を契機として、地引網から行事内容を変更し、「防災」をテーマに行いました。午前中は「横浜市民防災センター」を見学し、地震や火事などの災害体験をさせていただきました。昼食にジッパー付きビニール袋でご飯を炊く方法を体験し、行事を通じて防災に対する意識を深めさせていただきました。

そして午後には「第4回東日本大震災支援活動報告会」を開催。被災地の映像を見て、実際に被災地に行かれた方からボランティア活動の様子を聞かせて頂き、それぞれに今後何ができるかということに思いを馳せました。

防災センターでは、係の人の案内に従って地震体験の他に暗闇体験にも挑戦、皆さん手で辺りを探りながら、慎重に真っ暗な部屋からの脱出に成功してい



ました。また、ビニール袋での炊飯法では、少し芯の残ったご飯にも満足そうで、「次をやつたらもつとうまく出来る」という感想が多くありました。

午後からの報告会では、始めに金光教東京平和集会で流された映像を見させて頂き、被災地の様子を目で把握し報告に移りました。報告者は、須賀院崇徳さん(武蔵小杉教会)、堀端肇さん(藤沢教会)、そして松本信吉さん(麻布教会)がそれぞれ、北関東、気仙沼、石巻、そして「金光教首都圏地震等災害ボランティア支援機構」からのお知らせをご報告くださいました。

話の中では、震災から数週間経つてもまだ揺れているような感覚があること。避難所に飛び込みで物資を届けた時の様子。初めは塞ぎ込んでいた店主が店が少しずつキレイになっていく姿を見て元気を取り戻したこと。ボランティアの一日。被災者やボランティアなど人との触れ合いなどなど。現地に行かれて初めて分かる様々な話が報告されました。

報告者が同じ連合会で顔を見知っているということもあつてか、時折嗚咽の漏れるシーンもあつてか、聞いている人にもその心情が共有でき、有意義な報告会となりました。

(天領)となっていたようです。明治以降は幾多の変遷を経て、昭和30年に昭和の大合併により「津久井町」が誕生し、現在の相模原市への編入に至っています。

津久井教会は、昭和の初めに祖母が自宅に金光様を御まつりしたことに始まります。(祖母は祖父の転勤に伴って兵庫県で暮らしており、その時に現在の神戸市東灘区にある「御影教会」で金光教と出会いました。) 祖母の後は、父が2代教会長として御用にあたっておりましたが、平成5年に亡くなり、現在は親教会長であります神奈川教会の福田俊雄先生が教会長をされておられます。教師不在の教会で、信者さんの数も少なくなつた教会ですが、教会開設当初から参拝されたご両親の信仰を受け継がれた、小星重治さんご夫妻(重治さんは、平成21年10月4日発行の金光新聞1面「クローズアップ人」で紹介され、また各所で講演等もされておられますので多くの方がご存知のことと思います)が洒掃や祭典の準備などの御用を続けて下さる中で、春秋の御大祭・御霊祭を親教会の福田光一先生や神奈川教会手続き教会の先生方をお願いしているところです。

中途半端な信心をしている私ですが、教会の隣接地に住んでおりますので、今後もそのことにより出来る御用をさせていただきますと思います。

平成 23 年 神奈川 山梨教会連合会

# 生神金光大神大祭日程

教会名	日 程
甲府教会	10月16日(日) 13時30分
津久井教会	10月22日(土) 13時00分
鎌倉教会	10月23日(日) 13時30分
登戸教会	10月23日(日) 13時00分
横浜西教会	10月23日(日) 13時30分
川崎教会	10月30日(日) 13時00分
大明教会	10月30日(日) 13時30分
横須賀教会	11月3日(祝) 13時30分
生麦教会	11月3日(祝) 13時00分
丸子教会	11月3日(祝) 13時00分
相模原教会	11月3日(祝) 14時00分
平塚教会	11月5日(土) 13時00分
子安教会	11月6日(日) 13時30分
鶴見教会	11月11日(金) 13時00分
武蔵小杉教会	11月13日(日) 11時00分
大磯教会	11月14日(月) 13時00分
野毛教会	11月19日(土) 13時30分
小田原教会	11月23日(祝) 14時00分
神奈川教会	11月26日(土) 11時30分
藤沢教会	11月28日(月) 11時00分
南甲府教会	未 定

## ★「教師信徒研修会」 が開催されました

去る9月3日(土) 13時30分より、鶴見教会において「教師信徒研修会」が開催されました。参加者は43名(12教会)でした。今回の研修会では、連合会内の教会にあって関東布教史編纂委員会の御用に携わられている3人の先生を講師に迎えて、来年に迎える神奈川県布教120年に向けて「神奈川県布教当初の状況について研修する」という願いのもとに行われ、「神奈川県布教当初の状況について」女性教師 小西阿か師について、「信仰リーダー 福田源三郎師について」の3つのテーマでお話しをお聞きしました。

初めに南清孝先生(登戸教会)が、神奈川県として初めて横浜へ布教された当時の状況や、その後どのようにして県内へ布教が展開されていったかを、続いて村田喜実雄先生(子安教会)が、鎌倉教会の開創者である「小西阿か先生」の事跡について話されました。最後に村田光治先生(子安教会)は、神奈川県にあってリーダー役を担われた「福田源三郎先生」の事跡を話されました。その後は、質疑に併せて、講師が語られなかったエピソードも披露され、参加者それぞれに歴史に思いを馳せました。

## 〈な・が・れ〉

### 「シルバーライフ」私の生き方

武蔵小杉教会 後藤健児

我が人生、気がつけば喜寿も通過点となりました。少子高齢化社会の進展等、日本社会で私ら高齢者が安心して暮らすには、家族、地域社会等の絆を確かめ、あう社会の連帯(共助)と共に、自己の「自立」の精神が、これから一層求められると思われまます。私自身、「自立」の精神を真剣に考えて実践すべきだと思っており、そのキーワードは、健康づくり・仲間(友)づくり・感動するの三つの柱だと思っています。

健康づくりは、水泳、ウォーキング等、目標を立てて実施しています。仲間づくりは、生きていくためには欠かせないもので、高齢者同士が群れあう関係でなく、教会の信徒仲間等どこか緊張感のある切磋琢磨の関係が、お互いの士気を高めるものです。脳年齢の若さを保つには、いつも何かにときめきを感じることであり、自然でも、趣味でも、よく感動していくことが若さを保つ秘訣であると思えます。

残りの人生、「自立」のキーワードを基にして、「信心する人は何事にも真心になれよ」のみ教えを守って、人生を生きていきたいと思えます。

### 金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光 一

〒221-0057 横浜市神奈川区青木町六一二十五

金光教神奈川教会内